



イエス団報

Jesus band news

2019/12/24

23

再刊 23 号

- ご挨拶 常務理事 高田裕之
- 研修報告 「賀川豊彦献身110年」が意味するもの 理念委員会委員長 宇野豊
- クローズアップ 沖縄平和キャンプの取り組み
- 施設紹介 一麦保育園（西宮市） くはずは光の子保育園（枚方市）
- トピックス みどり野保育園40周年記念園舎改修 二宮保育所から二宮保育園へ
- J.B.フェローズ活動報告
- イエス団の輪つ 中野 敏一さん 大本 錦さん 出口 剛史さん 秋山 礼子さん 和田 勉さん
- 表紙写真の解説
- 編集後記

発行：2019年12月24日

発行者：黒田 道郎

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通5-2-20

TEL: 078-221-9565

FAX: 078-221-9566

<https://jesusbond.jp>

mail to: honbu@jesusbond.jp



ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、
1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、
社会悪と闘い、新しい社会を目指して
多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、
今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日



ご挨拶



社会福祉法人・学校法人イエス団

常務理事 高田 裕之

6月20日付で常務理事を拝命致しました高田裕之です。よろしくお願ひいたします。

イエス団には2006年4月、賀川記念館、友愛幼稚園、二宮児童館の館長・園長として着任しました。大学を卒業後、これまで青少年活動関係、障がい者関係、児童福祉関係で働いてきました。

法人の創始者 賀川豊彦（以降、賀川さん）との出会いは、大学での今井鎮雄さん（イエス団第四代理事長 元イエス団顧問）のグループワークの授業でした。子どもやキャンプに関心があり受けていた授業の中で、セツルメントの話があり、その中で、賀川さんの働きをお聞きしたのが最初でした。いろいろな話の中で、人格交流、人ととの出会いと交わりが、それぞれを成長させるということが印象に残っています。四十年以上前の話です。

いろいろな経験の中で、最も印象深かったのは1995年阪神淡路大震災に遭遇したことです。当時、神戸市長田区水笠通1丁目にあった青少年関係の事業所で働いていました。

震災直後より、たくさんのボランティアが全国から駆け付けてきました。

いわゆるボランティア元年です。「あなたも

明日からリーダー」参加者の自主性を生かし、最大、毎日300名のボランティアがひとグループ10~20名に分かれ、長田区、須磨区、兵庫区の救援復興活動にあたりました。どんな人とも工夫次第で力を合わせることができますと知りました。

2009年、賀川豊彦献身100年記念事業には事務局長として関わりました。今井鎮雄さんが実行委員長で、賀川記念館の建て替えを中心にいろいろな事業が実施されました。

当初、どのように進めて行けばいいのか途方に暮れていましたが、神戸市との最初の打ち合わせの日、神戸イエス団教会の上内牧師とお祈りをして、市役所に出向きました。

その時から、賀川さんのお孫さん（元理事・前賀川記念館館長、故賀川聰明さん）やコーポこうべの西義人さん（現賀川記念館参事）、連合兵庫の長谷川俊さん（元イエス団常務理事）達が、まさに集められるという感じで、コア100ができ、実行委員会が開催されました。「イエス団は本家ですから…」という西さんの言葉に励まされ、いろいろな兄弟姉妹団体にも気後れせず、事務局の仕事を全うすることができたと思います。

同じく集められたひとりに理事で、真愛ホーム施設長の出上俊一さん（博愛社出身）がいます。友愛幼稚園建替えでは真愛ホーム内の仮設園舎とHATの仮設園舎間の送迎を行いました。高齢者施設内の保育園設置及び保育園での送迎は神戸市で初めてのことでした。

また、その後、賀川記念館1階の医療モールを満室にするなど安定運営にも貢献されました。

2010年4月1日からは、児童養護施設ガーデンロイの施設長を拝命し、新たな気持ちでスタートしました。イエス団全体で初めて立ち上げた施設で、乳児院ガーデンエルを併設し、のちにファミリーホームハンナも両施設で立ち上げました。設立された背景には近年

の児童虐待の急激な増加があります。昨年度は、全国の児童相談所で対応した児童虐待相談件数が16万件弱で、ガーデンエル・ロイが運営を始めた2010年度が5万6千件であったことから、この10年ほどで3倍の急激な増加となりました。子どものいのちを守る最後の砦となっています。ガーデンエル・ロイ・ハンナには66名の子どもたちが11のホームに分かれて生活をしていますが、子どもたちの育ちで一番重要なことは、身近でしっかりと受け止めてくれる特定の大人の存在で、職員が身を挺して、その役割を果たしています。賀川さんが大切にしていた人格交流が、時代を越え、形を変え、今も脈々とつながっていることを感じます。

さて、この度、与えられた役割の中で、いくつかのことを実践することができればと考えています。

まずは、賀川さんの精神をいまの時代に実践するということです。新約聖書、ヨハネの手紙ー4章7節「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです」これは賀川さんが「私の好きな言葉」というラジオ番組で語られた聖書の箇所です。神を見た者はいませんが、愛は神から出るものなので、惜しみなく愛し合うと愛が尽きることなく溢れ、神が私たちの内にとどまります。たくさん的人が愛し合っていくと、そのたくさんの人の内に神が存在するようになります。この世に神の国が実現されていくことになります。

イエス団の働きはまさに人ととの関係の中に愛を生み出し、神の国建設の一翼を担う働きです。それは愚直なまでの日々の実践こそがイエス団のいのちであるともいえます。

イエス団は、宗教を含めどのような背景のある人にも、尊厳や人権、人のしあわせのため、また生きていてよかったといえる人生が歩めるように等しく支援することで、公益法人の

役割を果たします。それはキリスト教における実践とも一致します。キリスト教は実践の宗教です。その実践は公益そのものもあります。公益法人こそ生きたこの世の教会でもあります。形ではなく実践こそが生きたキリスト教の証です。

ちなみに同じ原則に経済が加わると、愛と助け合い、経済を理念とする協同組合の原則となります。

さらに、この度は公益法人としてのイエス団が、コンプライアンスとガバナンスを十分発揮しながら運営されるように法人のあり方を変更していきます。

具体的には、法人運営の執行の手順、役職員の役割と責任が、今まで以上に明確化、可視化されるようにします。

また、監事、監査法人の監査内容を十分に日々の業務に生かすとともに、社会に対する説明責任が果たせるようにします。そして内規である公益通報者保護管理規程をさらに充実させ、事業内容の公益性をしっかりと担保します。

2020年は賀川さんの献身から111年目です。これからの中のイエス団は、時代の変化を見据えた事業展開が求められます。

2040年には日本の人口がいまと比べて激減するというデータがあります。今ある形がいつまでもあるとは限りません。人のしあわせのためには、どのようなことが、どのような形で、どのように求められるのか十分検討する必要があります。そのためには、今ある事業や活動をできるだけ膨らませ、若い力を中心に新しい活動を生み出す必要があります。

私たちの歩みは未来につながっているのか。祈りとエビデンスを持って進んでいきたいと思います。これからもみなで力を合わせて進みましょう。

研修会報告



新任職員研修会

2019年3月25日（月）～3月26日（火）
於：六甲山YMCA

六甲山の豊かな自然の中、今年も新任研修が行われました。今年は参加者が63名。たくさんの仲間を迎えたことが喜びであります。

参加者、スタッフ、フェローズが共に祈り、共に学び、交流し、豊かな時間を過ごしました。

「イエス団の理念を理解し、職員としての使命を考える。」、「感じる、考える、気づく、伝える、聴く、分かち合うことの大切さを学ぶ。」、「新しい職場に入っていく準備をする。」という3つの目的をもち、研修がはじまりました。

グループワーク



開会礼拝では「神の国が目指すもの」と題し、神戸イエス団教会牧師 上内鏡子理事から「イエス団の働き」、「教会の働き」についてメッセージをいただきました。わたしたちは神様がここにおかれられた者。

うまくいかないことも出会い。わたしたちは平和を、社会をつくりだし、コミュニティとなるというお話は印象的でした。

1日目は仲間を知る、わたしへの気づきというテーマを中心に進めました。仲間との語らいの中、徐々に表情もほぐれ、仲間の思いに耳を傾け、自分の中にある気持ちに気づいていきました。その中で大活躍だったのがフェローズです。必要に応じて話し合いが円滑に進むよう整理したり、一人ひとりの様子を見て思いを引き出したりしていきます。グループワーク以外にも、食事の準備、休憩中の悩み相談などでも心配りをしていただきました。この研修はフェローズのみなさんの助けなしでは成り立たないと言っても過言ではありません。感謝です。

今回参加のフェローズ



2日目は「やってみよう」の曲に合わせて元気に体操をしてスタート。2日目で少し疲れが出始める時でしたが、この体操によって一日やってみよう!!の気持ちで明るくスタートできたようです。

セッションでは「イエスに倣って生きる」ことはどういうことを平田義理事、田村三佳子園長の実践を通しての話を聞きし、考えていきました。神様は私たちを大切にしてくれる。私たちもそばにいる人を大切にする。周りに痛みを感じた人がいれば自分のようにとらえ、一緒にすすんでいく。それが私たちの使命であると気づきを得ることができました。

2日間の研修を受け、わたしのミッションステートメントを作成し、発表しました。決意が表情に表っていました。きっと、それぞれの施設で活躍され、作成したミッションを実行されていることでしょう。



辞令交付式

黒田理事長からは閉会礼拝でメッセージを受け、辞令をいただき、それぞれのはじめの一歩となりました。

2日間という短い期間ですが、仲間と充実した時間を過ごし、互いのことを認め合い、高めあう、新任職員研修となりました。

報告：企画委員会 研修担当チーム
(幼保連携型認定こども園) のぞみ保育園 園長 植月 優子

ブラッシュアップ研修会

2019年6月14日（金）～15日（土）

於：六甲山Y M C A

- 1) 今の自分を見つめ、これからの課題を探る
- 2) 現場での体験を出し合い、仲間と共有する
- 3) 「イエス団ではたらくこと」の意味を理解し、深める

上記の研修目的を掲げ、ブラッシュアップ研修に取り組んだ21名の方々。最初少々緊張気味？のようでしたが研修が進むにつれ緊張も少しづつほぐれていったようです。今回の始まりは「グリーンチャペルでの開会礼拝」木々を揺らす風の音や鳥のさえずり、山の自然を全身で感じながらの礼拝となりました。



私の施設のハッピーニュースを発表する参加者

セッションスタート！アイスブレイクの後「私の施設のハッピーニュース」では各施設の取り組みなどいろいろなことを聞く事ができました。各セッションではグループ討議もあり、それぞれの思いを出し合い有意義な時間が過ごせたように思います。

2日目は「生き方としてのキリスト教」をテーマに進められ、スタッフの3つのキーワードより屋台方式での語り合いの時間をもちました。



最後に2日間の研修を通して、それぞれの思いをこめて各自のMSを発表しました。

参加者の皆さんには、各施設でのいろいろな思いをもち参加されていました。研修を受け、また他施設の参加者と思いを話すことでこれから仕事への思いも新たにされたのではないでしょうか。その思いが皆さんの力となりますように…。



参加者と共に：ブラッシュアップ研修会

報告：企画委員会 研修担当チーム
(幼保連携型認定こども園) 聖淨保育園 園長 峰 浩美

全体主任会

2019年7月5日（金）
於：賀川記念館

2019年7月5日（金）に行われました第4回イエス団全体主任会は、講師に木原活信氏（同志社大学教授）をお迎えし、「キリスト教社会福祉において大切なこと」～現代社会の「承認欲求」への渴きから～と題して、講演していただきました。



木原先生の講演はじめの言葉は、「皆さんは自分のことが好きですか」でした。「まず、自分自身を振り返って考えてほしい」人は誰しも、褒められたい、認められたいという欲求があり、自分の存在が必要とされていることで、嬉しくなったり、やる気が出たりする。これは、日常生活や職場の中でも日々誰もが感じていることで、私たちは家族や同僚にどう接しているのか。感謝の言葉、認めの言葉をかけているのか。先生の言葉で、日頃の自分自身を振り返ることができます。



講演の中で、参加した皆の心に残った聖書の箇所があります。ルカ10:38~42のマルタとマリアの話です。マルタはイエスをもてなすため、せわしく働き、マリアはイエスの話に聞き入っている。マルタはイエスに「マリアに一緒に手伝うように言ってください」と言う。するとイエスは「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。……マリアは良いほうを選んだ。それを取り上げてはならない。」とマルタに答えた。

この箇所に対する参加者の意見は、「もやもやする。」「マルタは何も悪くない。」「マルタに同情する。」などでした。また、自分はマルタかマリアか、自分自身に当てはめて考えてみました。グループで話し合ってみると、それぞれの立場の意見があり、自分が一方の視点からしか物事を考えていないことに気づかされました。先生のお話は、「相手の存在をありのままに受け入れる」という言葉にどれも繋がっており、それはとても大切で、しかしども難しいことでもあることだと感じました。

Jbn23-5

講義後のグループタイムでは、お茶を飲みながら感想や質問などを出し合いました。その中でも、「相手を受容すること、一人ひとりの存在をありのまま受け入れること、人と比べず認める言葉をかけることが大切だと分かっているが、なかなか職場ではできない。」「どうしても行動で評価してしまう。」という言葉が多くありました。自分自身も完全な存在ではなく、弱い存在であるので相手を受け入れられない時もある。施設の中での主任としての働きの難しさを皆が感じていました。そのような困難にぶつかった時はどうしたら良いのかという質問に「イエスさまだったらどう行動するのかと考える」と答えてくださった木原先生の言葉がとても心に残っています。



「イエスに倣って生きる」ことが、「キリスト教社会福祉施設において大切なこと」であると改めて感じることのできた主任会でした。第4回目を迎えるイエス団全体主任会に参加でき、イエス団に連なる施設で働く仲間と顔を合わせる機会が与えられたことに感謝しています。

報告：甲子園二葉幼稚園主任 黒川 陽子

リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2019年9月12日（木）～9月14日（土）
座学：在日韓国基督教会館（KCC）
フィールドワーク：大阪市生野区
社会福祉法人愛信福祉会 愛信保育園
社会福祉法人聖和協働福祉会 大阪聖和保育園
NPO法人サンボラム 在日コリアン高齢者支援センター 大池橋サンボラム
NPO法人うり・そだん デイサービスさらんばん
NPO法人出発（たびだち）のなかまの会

ここ数年間、「リーダーシップ養成研修会ステップⅠ」では大阪生野をフィールドにして2泊3日の研修会を行っています。2日目は地域にある保育園、高齢者施設、障がい者施設に分かれて現場体験を行い、3日間を通して川中大輔さん（龍谷大学社会学部専任教員）に講師を担当していただきました。

参加者はあらかじめ頂いていた資料の一つにある「共生・共存？生野・イカイノ 朝鮮市場からのメッセージ」を熟読し、イエス団理事で聖公会生野センター総主事の吳光現（オ・クァンヒョン）氏に案内していただき、在日の方々が多く住まれている生野地域の、戦前・戦後・現在をゆっくりと歩きながら体感しました。朝鮮市場（御幸通商店街・コリアンタウン）や戦後の闇市のあとを残している「鶴橋国際マーケット」などの現場に立つと、生野の街に息づく匂いや空気、飛び交う会話など五感を通して“生野の街”を感じたのではないでしょうか。



街を歩いているとそれぞれの家の表札に目が留まります。本名だけの表札、日本名だけの表札、本名と日本名が併記されている表札、これは元々1941年に強制的に実施された創氏改名から始まつたもので、抑圧されてきた歴史が街並みの中に垣間見ることができます。



在日韓国基督教会館 (KCC) では生野に在住の金英姫 (キム・ヨンヒ) 氏をお迎えして、彼女の歴史と現在の生活をお話しくださいました。済州島出身の両親のもとに 1931 年 9 月に大阪市港区で出生し、2 歳の頃に巽村 (現生野区) に引っ越しされ現在に至ります。親戚は「済州 4・3」で犠牲になられたこと、若くして父親や夫と死別し懸命に子ども達を育ててきた苦労。生活の困窮や国籍による差別に苦しめられてきたこと。現在、デイサービスに行っても日本人から「日韓関係が悪いな」という何気ない言葉に傷つく心。在日の彼女にとって日本という国は、在日を排除する社会“生きづらい国”。そんな辛い思いをお話しされている時も、重苦しい雰囲気にしないよう配慮して下さる金英姫氏。だからこそ、彼女の本当の辛い気持ち・思いを私たちがどのくらい想像することができたのか。だからこそ、日本と朝鮮半島の歴史・在日の歴史をしっかり知らなければと、感じた参加者も多くいました。

グループワークの様子

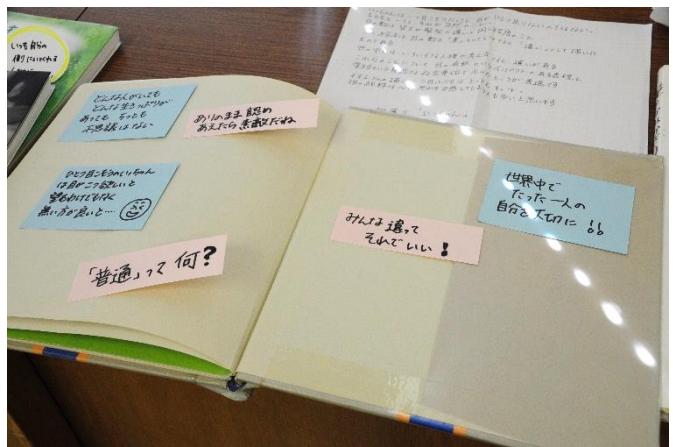


2 日目は生野の地域課題を、自らの課題として施設運営されている方々の現場研修は、私たちイエス団としてもミッションステートメント 2009 の実践につながる学びとなりました。夜の懇親会にお世話になった講師の方々も来られ、更に意見交換をすることもできました。

例年、3 日目の「私のアクションプランをつくる」段階では、現場研修をヒントにそれぞれの施設・事業所の地域へ思いを広げ、私たちに何ができるのか、何を求められているのか、ミッションステートメント 2009 では無い状況とはどのようなことなのか、を考える良い時となりました。

今年は、過去最悪の日韓関係の時期に、このリーダーシップ養成研修ができたことは本当に意義深かったと思います。なぜ、日韓関係が最悪なのか、在日として今の日本で住むことの苦しさとは、日本と朝鮮半島との歴史はどのような経過があったのか。参加者は一様に「知らない事・無関心は罪である」ということを実感できた研修でした。

この気持ちを持続させ学びなおしながら、それぞれの現場の課題へ寄り添えるリーダーシップ養成研修となれればと思います。



報告：企画委員会 研修担当チーム
野の百合保育園 園長 井桁 光

リーダーシップ養成研修会ステップⅡ 第2期開始



第1期リーダーシップ養成研修ステップⅡは、2014年10月から2016年8月にかけて行われ、16名の修了者を送り出しました。

そして 2019 年 4 月から第 2 期が開始されました。1 期の評価と反省を踏まえ、まとめられる内容はひとつにし、1 年間に集約しました。4 名の外部の専門家にも入ってもらい内容の充実を図りました。しかし、基本的な中身は変わっていません。特に「理念・運動推進」と「問題解決能力の養成」は、計画当初から研修委員会で議論してきた中心

的な内容です。イエス団の研修は、「新任研修」、「ブラッシュアップ研修」、「リーダーシップ養成研修ステップⅠ」と「リーダーシップ養成研修ステップⅡ」という構成であり、それぞれの経験における確認とステップアップの取り組みとして行われています。



しかし、ステップⅡにおいて特に強調しておきたいことは、「法人と施設の次代をつくっていくために、その責任をもって仕事をしていくリーダーの養成」という視点を持って行われているというポイントです。私たちは外部からリーダーを持ってきて役割をとってもらうではなく、私たちの仲間からリーダーを育て、力を合わせてミッションステートメントにいう社会をつくっていきたいと願うものであります。



1909年に21歳の賀川豊彦がスラムに入り活動を開始した、その時の思いや精神を現代に継承していくために、ひとり一人が大切にされ、しあわせをつくっていける社会するために「人財」を育てていきたいと願っています。



「組織」は「人」です。そして、そのことは今後のイエス団の最大の課題であります。リーダーシップ養成研修ステップⅡに参加されたみなさんが自分自身の生き方を問い合わせ、見出すことを願い、みなさんと共にこの研修を実りあるものにしていきたいと思います。



会議とコミュニケーション



参加者と共に

報告：研修委員会 委員長
二宮保育園 園長 馬場一郎

2019年度の研修会を振り返って

MS2009が策定されてから10年が経ちました。そして、賀川豊彦献身110年を迎きました。「わたしたちイエス団はどこに向かうのか」、そして「わたしに与えられた使命は何なのか」と、研修を通して考えできました。日常の場を離れ、ゆっくり自分と向き合う時間が与えられました。「誰に、どのように寄り添うのか」「どのような社会をつくりだすのか」をもう一度確認したわたしたちは、今それぞれの現場で目の前にいる大切な利用者さんと向き合っています。皆さま、お元気でしょうか。

出会うことができた一人ひとりの仲間のことを思い、今この振り返りを書いています。

研修での熱い思いも日々の忙しい業務の中ではどこかに追いやられているかもしれません。どうぞ思い出してみてください。熱く語り合ったあの研修の時を。

私たちは皆大切な一人ひとり。「そのままでいいよ」と言ってくださっていることを。

そして、「わたしたち」今できることでいいので、歩きながら考えて行くことができればと思います。研修に参加された皆さまも、これから研修に参加される皆さまも、「みんな、大好きだよ～」

研修スタッフ一同、皆さまのことを応援しています。

是非また語り合いましょう。

企画委員会 研修担当チーム チーフ
甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子

「賀川豊彦献身 110 年」 が意味するもの

イエス団 理念委員会

委員長 宇野 豊

はじめに

「1909 年、若干 21 才の賀川豊彦は、神戸市の新生田川地区に住み込んで、絶望的な生活をおくることを余儀なくされている多くの人たちと共に生活する道を選びました。賀川は自らの宣教と奉仕の活動を『救靈団』と名付けました。『救靈団』は後に『イエス団』と呼び方をかえますが、この 1909 年こそが、私たちの法人の創立した日と位置づけています。」

これは 2000 年 2 月に発刊した「イエス団報再刊第一号」に記された文章です。このように、創設者である賀川豊彦が活動を始めた（献身した）ことをもってイエス団の設立とし、以来、節目の年に「献身」と表記、創立を覚えることとしています。

今回はその 110 年目として、2020 年 2 月 1 日に「賀川豊彦献身 110 周年記念『イエス団大集会』」を計画、サブテーマは「MS2009 私たちの取り組み」としています。私たちはこの企画に以下のような経緯を踏まえた思いを込めています。

イエス団の理念とは

最初に理念として明文化したのは、「賀川献身 90 年」の 1999 年でした。

「1999 年はまさに法人設立 90 周年の年であり、これを記念していくつかの事業を、企画委員会を中心に計画実施して参りました。その中のひとつが『イエス団憲章』（以下「憲章」）の制定です。この憲章は、イエス団が何を受け継ぎ、何を目指している団体なのかを公にすることを目的としています」（イエス団報再刊第 1 号）。

そして、「賀川先生の意思を再確認し、業としての事業をおこなうだけでなく、『いと小さきもの』に仕える業を展開していくかどうかを検証するとともに、21 世紀に向けて我々が何を証し、何に奉仕し何を共に行動するかを考える起点となるものである。…中略…我々は賀川先生の言われる神の愛の地域社会における実践者として散らされてはいるが、同時に群れ全体の業が新しい時代にどう応えているかを考え、それぞれの働きを一つのものとして、生かさねばならない。イエス団がよき証をなし、もっともよく時代に応えられるよう祈りと業として組織とを明確にしたいものである。90 年の記念は、我々が新しい時代に飛躍するターニングポイントといえるであろう。（同「先達の祈りを実現するために」イエス団理事長 今井鎮雄）

そんな思いを込めて、約 1 年半をかけ、小委員会や全体委員会で議論を重ね、1999 年 12 月に策定、「憲章」が公表されました。

「憲章」から「MS2009」へ

それから 7 年。

「賀川献身 100 年記念事業」の一環としてイエス団憲章のとらえ直しと、賀川豊彦が記した著作の問題について、法人として考え方をあらためて整理すること、そして、その課題を担うため、理事、学識者を中心とし、委員会を立ち上げ検討していくことがイエス団理事会で決められ、2007 年 5 月、その任に当たる理念委員会が発足しました。

委員会ではまず、「憲章」を軸としつつ、「今」という時代を捉えながら、法人の基本理念を表し、これからの時代のニーズや課題を見据え、イエス団の自己理解と使命、具体的な方針を明らかにするための新たなステートメントを作成することとしました。

そのため、「憲章」自体が各施設に、どのように位置づけられ、内容がどこまで浸透しているのか、新たに策定するステートメントの内容はどのようなものがいいかなどについて、各職員向けにアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえ、文言はわかりやすく、イエス団内部職員に向けてではなく、外部に向けて私たちの思いを発信するものにし、各職員が内容をよく理解し、具体的な行動を起こしていくものにする、という基本的な枠組みを確認しました。さらに、下記に記した理念委員会としての思いもにじませながら、策定されたのが「MS2009」です。

私たちの「思い」

2010 年 1 月 30 日におこなった「賀川豊彦献身 100 年記念事業～イエス団大集会」のパンフレットにこんな私たちの「思い」を記しました。

「1999 年の賀川豊彦献身 90 年に制定された『イエス団憲章』は、法人の基本理念を表すものとして位置づけられています。その後、賀川豊彦献身 100 年を契機に、イエス団の歴史的検証も含め、これから時代のニーズや課題に即しながら、イエス団の自己理解と使命を再確認するために、『イエス団憲章』に加え、新たにミッションステートメントを策定することとしました。賀川豊彦献身 100 年を迎える今、『MS2009』を策定することにより、今後、法人としての使命、すなわち具体的な方針を明らかにします。そして、この「MS2009」に基づき、各地域において私たちが誰と共に、何を目指して、どのように実践していくかという行動計画をたて、具体的に実践していきます。この『MS2009』を策定するにあたり大切に考えたことは、賀川の過ちも含めて、過去の歴史を検証すること。また、イエスに倣った賀川の働きを継承していくこと。そして、私たちもまたイエスに倣って生きることです。」

そして

「MS2009」の理念が活かされ、法人全体、各ブロック、施設、地域、個人で様々な取り組みがなされてきています。他方、社会を見渡せば、残念ながら MS2009 に示された内容に逆行するかのような社会的状況が広がっていることも事実です。

従って、今回の集会は単なる報告や交流にとどまらず、今を生きる私たちが、「MS2009」に示された内容をもって社会を捉え、これから 10 年を見据えつつ、今、イエスに倣って生きるとはどういうことなのか、そして、「イエス団がよき証をなし、もっともよく時代に応えられるよう祈りと業として組織とを明確にしていく」ためにはどんな準備が必要なのかを、あらためて確認しあうことができればと思います。



クローズアップ 「沖縄平和キャンプ」の取り組み

ぶどうの木保育園 施設長 木村 耕

阿波根昌鴻さんとの出会い

私が学生時代に、沖縄県の伊江島にある「ヌチドウタカラの家（反戦平和資料館）」の創設者 故阿波根昌鴻さんとの出会いがきっかけとなり、子どもたちが実際に沖縄の現場で“いのち”に触れる体験が出来ないだろうか、実際に沖縄戦を体験された方々からお話を聞かせて頂けないだろうか、沖縄の自然、文化、食、沖縄のすべてに触れる体験をさせてあげたい、その様なねらいと願いをもって職員と沖縄での様々な現地研修（3年間）を経て、2005年第1回目の「沖縄平和キャンプ」（5歳児2泊3日）が始まり 2019年度で15回目を迎えます。キャンプを重ねるごとに沖縄の方々との出会いと交流も深まり、さらに“もっとこんな体験をさせてあげたい”などの保育者の希望が増し、第5回（2009年度）より3泊4日となりました。

土は魔法使いのようだよ



子どもたちは乳児の頃から様々な沖縄の文化に触れ、沖縄の食材を食し、5歳児さくら組になると「沖縄平和キャンプ」の事前学習（机の上で勉強するのではなく実際に体験して五感を養います。）を行います。阿波根さんの言葉“土は魔法使いのようだよ”（※土はしっかりと丹精込めて栄養を与えてあげると、新たな命を育んでくれる魔法使いのようなもの）の言葉を実践するかのように、子どもたちは近くの乗馬センターに馬糞を貰いに行き、馬糞を土に混ぜ込み栄養満点の土作りをします。そしてその土を使った畑で沖縄の食材、ゴーヤ、島らっきょう、島ニンジン、うりずん豆などを育てて、収穫しクッキングで美味しい“おきなわメシ”をいただきます。子どもたちは様々なのちと出会い、いのちに触れ、自分ののちを大切にしていきたいという気持ちが芽生え、同時に自然やそこに息づく様々なのちを守っていきたいという思いが大きく膨らんできたようです。

キャンプ4日間の概要



キャンプ4日間の内容は次のようなものです。「くすぬち平和文化館」（沖縄市）で沖縄平和絵本『つるちゃん』の主人公 金城 ツル子さんの講話を聴かせていただき質問タイム、「光の子保育園」（沖縄市）の子どもたちとの歌やエイサー交流、「佐喜眞美術館」（宜野湾市）訪問、「辺野古浜テント」（名護市）訪問、「伊江ビーチ」（伊江村）でピースフラッグ作りと海遊び、伊江島めぐり（団結道場、ニイヤティヤ洞、タッチュー登山など）、「わびあいの里」（伊江村）で謝花悦子さんの講話と質問タイム、「反戦平和資料館」（伊江村）で阿波根さんが集められた“戦争の落とし物”に触れる、沖縄のデュオ「そら」のミニコンサート、「対馬丸記念館」（那覇市）訪問などその他様々な体験があります。

沖縄県名護市辺野古「浜テント」訪問



たくさんの“なんでかな”を感じて



子どもたちは、新基地建設反対協議会代表の安次富 浩さんから、海の中の生き物の生態、ジュゴンの子育ての様子などを聞き、続いて案内してくださる坂井 满さん（まんちゃんとお呼びしています）と一緒に浜へ移動して、全園児（0歳児～5歳児 171名）が掌や肘などボディペイティングで作り上げたバナーをフェンスに掲げました。バナーには子どもたちが「きちをつくるとじゅごんがいなくなるよ。へのこのうみをまもろう」と記し、親子のジュゴンとジュゴン達が食べる海草（ザングサ）や海の生き物を描きました。

満ちゃんが子どもたちに語り掛けてくれました。「満ちゃんは戦争が嫌いです。満ちゃんのおばあちゃんは爆弾から逃げて、山の中で満ちゃんのお母さんを産んでくれました。もしおばあちゃんが爆弾にやられていたら、満ちゃんのお母さんも、満ちゃんもここにはいません。満ちゃんが受け取った「いのち」をどうやったら沖縄に・・・辺野古に・・・おじいちゃんおばあちゃんに返していくのだろうかと、ずっと考えています。どうして沖縄なんだろう、どうして辺野古なんだろう、いつまでこの戦車は誰かを傷つけたりするんだろう、とずっと考えています。誰かと考えを分かち合う、誰かと思いを分かち合う。一人でうれしいなと思うより、うれしい気持ちをたくさんの人と分かち合えたらどんなに喜びが増えることでしょう。みんなにはこれから“愛する人”をたくさん増やして欲しいな、“愛する場所”をたくさん持つて欲しいなと思います。これからもまた、戦争の話やいのちの話を聞いていくと思います。その時にたくさんの“なんでかな”を感じて下さいね。5歳の頭で、10歳の時の気持ちで、その時の自分の気持ちや思いで見て、感じて、話しゃってくださいね。」と語って下さいました。

この話を聞いた時、2012年9月、「沖縄平和キャンプ」を体験して卒園した数年後、小学生となった子どもたちと保護者の方々20名程と共に、「沖縄平和キャンプの足跡をたどる旅」を思い出しました。子どもたちにとっては懐かしい場所であり、久しぶりに出会う沖縄の方々との出会いに感動していました。その小学生が「戦争って、怖いし、悲しいし、辛いことばっかりやのに、なんで戦争の準備するんやろう」と呟いていました。子どもたちは日々、保育園生活でも又学校生活でも家庭においても常に、“なんでやろう”と考えています。その答えはすぐ出てくるものもあれば、今もこの先もなかなか出てこない疑問もあるでしょう。“なんで戦争するんやろう”“平和ってなんやろう？？”しかし子どもたちはこの「沖縄平和キャンプ」を体験しました。たくさんの沖縄に関する“なんで”は知ることから始まり、感じ、考え、学び、答えが導かれることがあるでしょう。子どもたちが何年か先にやっと答えを導き出したときに、「なんでやねん」と突っ込んでほしいのです。自ら導き出した“なんでやねん！”は再び知り、感じ、考え、学び、新たな行動となり“愛すべきもの”を愛し、守っていくことを願っています。

「わびあいの里、ヌチドウタカラの家、反戦平和資料館」訪問



幸せとは？ 平和とは？



平和の武器は教育だ



沖縄本島北西部に浮かぶ伊江島（人口約4,200人）、この伊江島に私たちが毎年訪問している「わびあいの里」、「反戦平和資料館」があります。故 阿波根 昌鴻さんも戦後伊江島にあった自分の土地を米軍に奪われ、我が子を奪われ、その後の土地返還闘争の中で収集した米軍の爆弾、生活用品やカンカラ三線など“戦争の落とし物”と言われるものが展示されています。それらはすべて手に取ってみることができ、その当時の土やシミ、匂いが染みついており、戦中戦後の生活を彷彿させてくれます。子どもたちを迎えて下さったのが、開設当時から阿波根さんと共に力を注がれてこられた謝花 悅子さんで、たくさん訪れる修学旅行生や訪問者を受け入れ、阿波根さんの生き方、“知ることや学ぶことの大切さ”、戦争の愚かさなどを子どもたちに伝えて下さっています。

子どもたちと謝花さんとの応答を示してみました。謝花さん：「幸せとは何ですか？」子どもたち：「生き物を大切にすること」「大切に暮らすこと」「仲良くすること」「平和ってこと」謝花さん：「平和とは何かな」子どもたち：「人を大切にすること、楽しく暮らすこと」謝花さん：「よく勉強してきたね～戦争をするのは人間。戦争はさせてはならないということ、だから辺野古のおじい、おばあ達が朝早くから夜遅くまで、あの海を守っているんだよ。ジュゴンたちが幸せになるために。この沖縄は沖縄の人たちのもの。山にも海にも勝手に基地を造っているんだ。是非みんなで力を合わせて、平和な世の中を、みんなが幸せになることができる世の中を創っていきましょうね。」と締めくくって下さいました。

謝花さんの真実の言葉、ウチナンチューの心の叫びを子どもたちはどのように捉えたのでしょうか。「反戦平和資料館」の壁には、「すべて剣をとる者は剣にて亡ぶ（聖書） 基地を持つ国は基地で亡び 核を持つ国は核で亡ぶ（歴史）」と描かれています。そしてこの資料館を建てられた時の阿波根さんの言葉が「戦争は人災だ。だから人災を防ぐには教育が大切だ。平和の武器は教育だ」という言葉が胸に突き刺されます。阿波根さんが残された言葉は謝花さんへと引き継がれ、聴くもの一人ひとりへと受け継がれていきます。キャンプを体験した子どもたちは今、考えます。知ることの大切さ。考えることの大切さ。続けることの大切さ。創り出すことの大切さ。子どもたちの平和の創造への第一歩はこのような形で始まりましたが、これから子どもたちが歩む指標の一つとして、平和を創りだす原動力として持ち続けて欲しいと願っております。

施設紹介

一麦保育園

(幼保連携型認定こども園)

データ

〒663-8033 兵庫県西宮市高木東町 30-3

TEL : 0798-67-2775 FAX : 0798-67-1893

<https://ichibaku.jesusband.jp/>

一麦保育園は1932年この地に移り住んでこられた賀川豊彦先生によって創設されました。武庫川のほとりのこの地をこよなく愛した先生が、信仰実践の場として自分の家を開放して昼には託児所を、夜には農民福音学校を始められたのがその始まりです。それから87年、この創立者の遺志を受け継ぎながらキリスト教の信仰に基づく児童福祉の事業を続けてきました。

賀川豊彦先生がその名作小説「一粒の麦」の印税収入をもとにこの地に農民福音学校のための「一麦寮」を、またその東隣に芝八重氏の寄付による「ヤヘシバ館」を建てられて、農村託児所が開設されたのが始まりといわれています。

最近では親子三世代が卒園生という家族もあり、地域に根ざした児童福祉施設として貢献してきました。2019年3月で卒園生は5796名となりました。近隣地域は阪神淡路大震災後、西宮北口駅前の再開発並びに地域全体の区画整理が一段と進んで、地域の環境は一変しました。住みたい街の上位にランキングされる西宮北口駅周辺ですが、創立当時からの恵まれた自然環境が次第になくなりつつあることや、子どもを取り巻く環境が変化してきました。そうした中で少しでもゆとりのある心豊かな子育ての支援をしていきたいと考えています。



2018年に園舎の全面改築工事を行い、2019年1月に新園舎が完成しました。園庭も改装し今年5月には新しい園庭で子どもたちが遊べるようになりました。また2019年4月からは幼保連携型認定こども園として新たな歩みをスタートさせました。定員は179名(うち1号認定3名)ですが、現在(2019年11月)は保育認定(2,3号)の子ども185名が在園しています。



Jbn23-11

神戸コダーイ芸術研究所の先生に指導を仰ぎながら、乳幼児(0, 1, 2歳)の育児担当制、幼児(3, 4, 5歳)のきょうだい保育(縦割り保育)を行っています。それぞれ歴史を重ね、一定の評価をいただいている。また育児カウンセリングの先生方に定期的にお越しいただき、子どもたち一人一人の育ちを大切にした保育を行ってきました。



クリスマススペジェントの一場面

クリスマスには毎年5歳児によるクリスマススペジェントが行われ、4歳児も歌・賛美で参加します。一麦保育園オリジナルのページェントは、イエス様の降誕をお祝いする大切なプログラムとして受け継がれています。また、1年を通して週1回西宮一麦教会の牧師による幼児礼拝を行っています。



秋のバザー

毎年11月にはバザーが開催されました。卒園生や近隣の方も大勢来てくださるバザーは、地域のみなさんと交流する大切な行事として長く続けられてきました。昨年は改築工事で実施できませんでしたが、今年は2年ぶりに開催することができ、多くの方が来場くださいました。



一麦保育園の子どもたちが活躍するラグビー大会は、5歳児、4歳児が参加し、毎年のように優勝・準優勝をしています。子どもたちがボールを追いかけ、トライを目指す姿に、保護者、保育士の熱烈な声援が送られ、一麦がワンチームになることができる行事です。この経験をきっかけに学校でラグビーを始めた卒園生もいます。



賀川先生の理想と幻を原点に据える一麦保育園は、時代の変化の中にあっても園創立の精神と福祉のこころを堅持し、新しくなった園舎と園庭を十二分に用いながら、

新しい時代の保育・幼児教育に取り組んでいきます。

園長・梅村 新

くずは光の子保育園

データ

〒573-1111 枚方市楠葉朝日1-22-10
TEL: 072-856-8882 FAX: 072-856-8895

くずは光の子保育園は、1974年(昭和49年)4月より歩み始めて、今年で46年目になります。園は、大阪府北部、また枚方市の北端に位置し、園からは、徒歩5分程で京都府八幡市につながります。住宅街の中にあり、今から50年前、新興住宅地として開発され、その住民の需要により保育を開始しました。



当時の建設予定地

当初90名定員でスタートしましたが、2002年新園舎建設と共に120名となり、2004年には150名、2015年10月からは分園開園と同時に170名になり、現在

184名のこどもが在籍しています。卒園生も今では1302名となり、卒園生が親になり、そのお子様も預けていただき、そして巣立っています。この結びつきに感謝です。

大勢の子ども達が園で生活していますが、その中でも日々落ち着いて笑顔で過ごせることを目標にしています。そのために、遊びや環境において保育の見直しを行い、特に乳児クラスでは、年間を通して専門の講師による園内研修を行っています。ゆっくりの歩みですが、神様に守られながら、子ども達一人ひとりが人としてしっかりと歩んでいくように、将来の子どもの姿を見据えた、根っこになる土台作りとしてこれからも保育を進めていきます。



本園玄関ホール

地域との連携

2008年より地区の自治会に入会し、また2009年からは、校区コミュニティ協議会に仲間入りさせていただき、地域に根ざした保育園を目標に進めてきました。夏祭りのオープニングでは子どもたちが盆踊りで参加し、また、校区フェスティバル&もちつきではダンスを踊り、子どもたちの成長した元気な姿に喜んでいただいています。

また、保護者の会の方たちと共に、夏、冬のパトロール、春には、河川の清掃活動に参加し、園としてできることを協力しています。その中で、地域との交流が深まり、良い関係を築かせていただいています。昨年の6月の大阪北部地震の時、揺れがおさまってすぐに地域の会長さんが自転車で駆けつけて下さり、「だいじょうぶか!」と心強いお声掛け。このことは、本当にありがたく、忘れられません。

これからも地域の方々と共に、地域の中で歩む保育園でありたいと願っています。

分園運営

2015年10月からは、分園の運営が加わりました。園から50m程のすぐ近くの公立幼稚園の廃園に伴い、その有効利用として、また市の待機児童解消の為、1歳児、2歳児の保育、



そして地域子育て支援拠点事業を担っています。分園の隣は公立の小学校の校庭で、分園の園庭からは視界が開け気持ちの良い空間が広がっています。また、入口横には、さくらやいちょう、とうかえでの木があり、裏庭には、つつじ、さつき、きんかん、あじさい、すすきと様々な植物が植えられ、自然にふれる良い環境に恵まれています。また、砂場を再利用した畠で野菜や果物を育て、秋にはおいも作りをし、収穫を下さった神様に感謝します。



地域子育て支援拠点事業は、週3日10時から15時まで開放し、地域の親子がホットとする場所として集ってこられます。お母さんたちによるコンサートのイベントも大好評です。

育児相談も積極的に行い、スマイルセンター(大阪府認定の育児相談員)の担当職員を中心に母の悩みを聴き、母の気持ちに寄り添うことを大事にしてお話を伺っています。

くずは新生園との結びつき

隣接するケアハウス楠葉新生園は、2年前法人より離ましたが、以前と変わることなく大変良い関係が継続でき感謝です。子ども達と手をつないでの公園への散歩、昔ながらの伝承遊びを楽しみ、良い交流がより深まっています。あるおじいちゃんは、毎朝の散歩で拾ったたくさんの松ぼっくりを子どもたちにプレゼントして下さいます。



ケアハウスの部屋の窓から子どもたちに手を振るおばあちゃん。子ども達も手を振り返します。幼い子どもとおじいちゃん、おばあちゃん。互いに元気をもらっています。周りの人々を思いやる優しい気持が育つ関係性、環境を嬉しく思います。

園長・柴田弘子

Jbn23-12

トピックス

みどり野保育園 40周年記念 園庭改修



2019年の2月～7月にかけて1階の園庭と3階の屋上の改修を行いました。

1階はブロック塀を取り壊し、フェンスを新調。その一角に、平和への願いを込めて、旧約聖書に描かれる「ノアの方舟」の壁画を設置しました。これは山内鈴花さんという作家さんの作品で、すべて手作りです。海、陸、葉っぱの形をした舟、いろいろな動物、虹、オリーブを咥えた鳩などがちりばめられています。銛鉄を巧みに曲げ伸ばし制作された世界に一つしかない作品となっています。



園庭にあった遊具のスカイジム（幼児用）、汽車（乳児用）や固定型の鉄棒、砂場、物入れなどをすべて撤去し、安田式鉄棒、平均台、杉材でできた遊具、倉庫などを新たに購入しました。砂場も新しくして河砂から真砂土に質を換えました。



安田式遊具は元小学校の校長先生だった安田祐治先生の考案で生み出された遊具ですが、私が最初にスキーを習った先生でもあります。その特徴は、①得意な子も、苦手な子も、自ら遊んで熱中出来ます。②やってみたい、もっと出来るようになりたいと思える。

③友達同士お互いを意識し合って、共感し合える。④運動遊びが大好きになる。⑤移動式であることからいろいろな組み合わせにより様々な遊びのバリエーションが生まれる。などです。最初は半信半疑だった保育士も今では、その考え方で魅了され研修会に参加しています。



失敗したこともあります。県の緑化事業に乗っかり、天然芝を植えたのですが、子ども達に開放したとたんどんどん枯れていき今は土と化してしまいました。狭い敷地で天然芝を植えることはお勧めできません。



3階屋上は建物維持において重要な防水加工をした上で、人工芝とオーニング（日除け）を設置。古い倉庫も処分し新調しました。近年の異常気候への対応としてどうしても日除けが欲しかったし、人工芝を敷き詰めることで、第2の園庭となり、年中子ども達が遊べるスペースとなりました。

新築でも改修でも大切なことは、そのプロセス（過程）です。日頃、見慣れた保育環境を見直す機会になりますし、今後どんな保育をしていきたいのか考える時間になるからです。

そのことを保育士どうしで共有することで心を一つにすることができます。他の新築園を見てうらやましくも思いますが当園もほどほどと環境整備に力をいれています。



みどり野保育園 園長 中田一夫



市立二宮保育所が民間移管されるという情報は、もう7~8年前から出ており、当時友愛幼稚園園長であった私は手をあげることなど、まったく考えていませんでした。私は2007年から天隣乳児保育園、2010年から友愛幼稚園、賀川記念館で仕事をしていますが、その中で「地域」というものの存在を少しずつ、理解し、考えるようになりました。私たちが保育、地域福祉を行っている「地域」を。

賀川豊彦は1909年、貧しい人たちのために救貧の活動を始め、地域の人々のために、目の前の困難な課題に全力で取り組みました。その中で、友愛幼稚園、賀川記念館ができ、その後も継続して地域の福祉課題に取り組んできました。



その「地域」を考えた時、この二宮保育所の民間移管にイエス団が手を上げずしてどうするのか、と考えるようになりました。私たちの子どもたちが住む「地域」に対して。

後で聞けば、6法人が申請を出されたとのことでした。外部有識者や二宮保育所の保護者の方が入った審査委員会でプレゼンをし、質問に答え、最終的にイエス団が選ばれました。この「地域」での仕事を評価してもらつてのことだと思います。

現在、友愛幼稚園で児童発達支援事業、放課後等デイサービスを開設し、発達に課題のある子どもたちの療育的なケアを行っています。また賀川記念館では、外国籍等の子ども・保護者のための学習支援や、ひとり親家庭の子どもたちのケア（2017年で一旦終了）も行っています。これから二宮保育園の運営に関しては、このような取り組みとも連携して、子どもたちのニーズや保護者の要望に応えていきたいと思います。

二宮保育所から二宮保育園へ。保育を行う場所ではなく、子どもたちの園（kinder garten）になるために・・・みんなで力を合わせたいと思います。

二宮保育園 園長 馬場一郎

J. B. フェローズ活動報告

京都ブロック

2019年度のJBフェローズ京都ブロックの活動は、

- ① 「発達障がいに関する意見交換会」
- ② 「給食に関する意見交換会」
- ③ 「豊島研修」「長島愛生園研修」
- ④ 「イエス団110周年記念大会」

の4つの活動を主に行ってきました。

① 「発達障がいに関する意見交換会」

今年も各施設から事前に質問事項を集め、今村先生に講演会を行って頂きます。今村先生の活動・実体験等をもとにわかりやすく実践に結びつくということで行う事にしています。意見交換会は、今年度も引き続き各施設から事例を持ち寄り、情報を共有し、より良い関わりを考える場にしていこうと考えています。

② 「給食に関する意見交換会」

年3回各施設の調理職員が集まり、献立作り・レシピ・提供する器・食育の評価等の情報交換や意見交換をしています。

③ 「豊島研修」「長島愛生園研修」

今年も「2施設合同夏祭り」を豊島の担当者でお手伝いさせて頂きました。

「豊島研修」も継続して行ってきた企画です。

豊島の方々、各ブロックの方々の御協力を頂きながら続けてきた「みんなのレモン」は5年目になりました。



去年、畑を耕し、麦を蒔き、収穫まで行う事が出来た麦。今年も行うことができました。継続してきたことが実を結び始めた事は感謝です。

「長島愛生園研修」では、資料館の見学、当事者の方の体験談、当事者の方々を囲んでの懇親会を通じてハンセン病問題が理解出来る貴重な機会となりました。翌日は、長島愛生園内の海岸の掃除を行いました。これからも継続して研修等を行って行きたいと考えています。

④ 「イエス団 110 周年記念大会」

例年「JBF 京都交流会」を行って来ましたが、今年度は「イエス団 110 周年記念大会」参加に変えさせて頂きました。より多くのイエス団職員が集う大会で「MS 2009」の実現や思いの共有が出来るのではないかと思っています。

2019 年度は、「豊島研修」「長島愛生園研修」等、継続して研修をしていく中で、研修から学ぶことは、もちろん研修に関わって協力して下さった方々、地域の方々、参加して下さった各施設の職員との間で研修を超えた協力関係や人間関係が出来てきたように思います。これは、イエス団 100 周年記念大会を機に出来た JB フェローズが大にしたいと思っている「繋がり」が施設やブロックを超える地域・利用者・法人・職員が繋がり始めたと思います。ただ、まだまだ限定的で課題も多く、一人ひとりの大切な「聲」に耳を傾ける所まではいっていません。今年行われる 110 周年記念大会には、多くのイエス団職員が参加されます。そこで、もっと大きな繋がりの輪が出来る様に実践していきたいです。

報告：京都ブロックリーダー
宇山光の子保育園 荒木 健

大阪ブロック

2019 年度の活動は以下の 4 点を中心に進めました。

- ① 施設訪問を行うことで理解を深め、お互いの学びとする。
- ② 職員通信を発行してつながりを深める。
- ③ 震災復興支援について
　　今年度は靴下を物品販売し、収益を支援として送付しました。
- ④ 給食室の交流会を昨年に引き続き行う。
　　JB 担当ではない職員も参加できる者は参加する事で交流を深め、JB の取り組みを周知するようにしました。

① 施設訪問

➤ 「8 月 19 日（月）ガーデンエル・ロイ公開保育・施設見学」
　　実際にクラスに入り子ども達と一緒に過ごすことで触れ合いの時間を持つことができ理解を深められました。また昼からは研修や意見交換を行い、各施設の話を聞く事でそれぞれの学びや刺激となり、悩みなどの共有も出来ました。



➤ 「豊島研修」

四国、京都、兵庫ブロックと共に協力し参加させて頂きました。

② 大阪職員通信

➤ 第 18 号発行（10 月末発行）

- 内容：
・ガーデンエル・ロイ施設見学報告、感想
・ハンセン病研修報告
・各施設取り組み紹介
・キリスト教 Q&A

➤ 第 19 号発行予定（2 月発行予定）

- 内容：
・豊島研修報告
・給食室交流会報告
・各施設取り組み紹介
・キリスト教 Q&A

③ 震災復興支援について

➤ 今年度は新しく靴下の販売を通して、支援をすすめました。
　　249 足を販売し本部を通して義援金を届けました。

④ 給食室の交流

- 11 月 19 日 馬見労働保育園にて行う
・施設見学、給食交流
・職員同士で意見交換を行う

⑤ 大阪ブロック会議

- 1 回目 5/14 2 回目 8/19 3 回目 11/19
4 回目 2/20 予定

報告：大阪ブロックリーダー
天使保育園 金田裕美子

四国ブロック

2019 年度の四国ブロック JB フェローズは

- ① 豊島企画「麦収穫」
- ② 長島愛生園ハンセン病研修の参加
- ③ 各施設の子どもたちの作品の送り合い

① 豊島研修企画「農民福音学校での麦の収穫」

早熟のため収穫の予定を見送り、日を改めたのだが台風通過によりそれも断念し、収穫を行うことができなかつたのがとても残念でした。その後、整備が行うことができず繁茂している状態なので、来年度は実施できるように改善策を話し合う必要があると思いました。

② 長島愛生園ハンセン病研修の参加

四国ブロックからは 5 名参加しました。天候は悪かったものの JBF 以外の職員も参加し、色々と考えさせられる時間を過ごすことができたとのことです。実際に研修に参加したことのある者としては現地に自ら赴かないと感じられない空気や思い、語り部の方の話を多くの職員に経験してもらって積極的に学んでいってほしいと思いました。

③ 各施設の子どもたちの作品の送り合い

子どもたちが作った作品を各施設から豊島のナオミ荘に敬老会で送り合いをしました。子どもたちには事前に地図を使って施設の場所を知らせたり、豊島に行った職員の話を聞くことでより身近な存在を感じられるようにしました。

作品を飾ってくれている様子を送り合うことで、子どもたちも飾ってくれている事を見る事ができてとても嬉しそうにしていて「おっこてよかったです」という言葉も出てきて私たちも嬉しかったです。



その後は写真も各施設で掲示板に展示し、子どもたちだけでなく保護者にもイエス団の施設に興味や関心をもってもらえるように工夫しています。これからも作品の送り合いは続けていき、離れていても繋がりを感じられるようにしていきたいです。

報告：四国ブロックリーダー
土井池美紀（光の子保育園）

兵庫ブロック

2019 年度の兵庫ブロックの活動は以下の 5 点を中心に進めてきました。

- ① ブロック交流会
- ② 施設訪問研修
- ③ 「豊島研修」「ハンセン病研修」
- ④ 給食室研修
- ⑤ 東日本復興支援 T シャツ・ポロシャツ・パーカー・トレーナーの販売

① ブロック交流会

今年で 8 回目となる兵庫ブロック交流会は、9/28 (土) 17:30~20:00 まで賀川記念館にて行われました。交流会は「研修」と「懇親会」の 2 部制になっており、どちらかのみの参加という方もおられるため、昨年度の交流会後、より参加していただきやすく、また各施設の交流という目的を果たすにはどのような内容にすべきかということをブロック会議で話し合いました。そして、今年度は職員の方々による「園紹介」という形をとることにしました。今年度は、新しく開園しました二宮保育園が担当してくださり、馬場園長と職員の方々に園紹介をしていただきました。友愛幼稚園との関係や神戸の地域における園のあり方等を紹介してくださいました。各園、「その地域の中にある園」ということを考える機会になったのではないかと思います。



また、同じブロックの園の雰囲気を知る良い機会になったのではないかと思います。懇親会では、例年通りグループ対抗のゲーム大会が持たれ盛り上りました。来年度以降、順番に各園が紹介を行いたいと考えています。同じブロック内での顔の見える関係づくりが今後もなされていくことを期待しています。



② 施設訪問研修

今年度は一麦保育園と友愛幼稚園の 2 園で行われました。ブロックを超えて配信したこと、他ブロックからも参加がありました。2 園とも自由見学後、質疑応答の時間を持つという形をとりました。参加の人数が少ないのであってか、振り返りの時間は和やかな雰囲気で、質問もしやすく、良い意見交換の時間となりました。今後もブロックを超えて配信したいと考えています。

③ 長島愛生園研修

長島愛生園研修は、7/18~19 に行われました。入所者の方との夕食会が雨天のため、交通機関がストップしてしまい、目的の深い部分である交流の時間を十分に持つことができませんでした。語り部の方たちがご高齢であり、移動も大変であるため、語り部の方たちとこれまでとは異なる関わり方、交流の仕方を考えいかなければならぬという今後の課題が見えました。

④ 給食室研修

一麦保育園にて、1 月に予定しています。

⑤ 東日本復興支援 T シャツ・ポロシャツ・パーカー・トレーナーの販売

今年度、T シャツの新色でシティーグリーンを販売しました。313 枚の注文がありました。パーカーの販売は、フードなしの要望があり、今年度はトレーナーの販売を始めました。また、サイズも増やしました。園によっては、行事の際に職員で揃えて着ているとのことで、様々な形で用いられ、東日本復興の思いが風化せずに続していくことを願っています。

報告：兵庫ブロックリーダー
みどり野保育園 中村ひとみ

イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題してリレー形式での投稿です。理事・評議員から一人、一般職員は、各ブロックより一人ずつ寄稿して頂きます。

9回目は、理事の上内鏡子さんから、理事の中野敬一さん。兵庫ブロック：木村ともさん（神視保育園）から大本錦さん（甲子園二葉幼稚園）京都ブロック：阪口陽子さん（空の鳥幼稚園）から出口剛史さん（あいりん）四国ブロック：須藤恵子さん（豊島ナオミ荘）から秋山礼子さん（瞳保育所）、大阪ブロック：木本敦子さん（天使虹の園）から和田勉さん（天使ベビーセンター）です。



社会福祉法人イエス団理事
神戸女学院大学文学部総合文化学科教授
日本基督教団仁川教会牧師
中野敬一さん

「イエス団と私」

神戸イエス団教会牧師の上内鏡子理事からバトンを受け取りました。私が理事に加えて頂いたのは2010年です。お声掛けを頂いた時には保育者養成を主たる目的とする頌栄短期大学の宗教主事・教員として働いていました。イエス団の各施設には頌栄の学生と卒業生が実習・就職でお世話になっておりましたので、お役に立てる機会が与えられたことは喜びでした。

その後、神戸女学院大学で働くことになり、現在は文学部総合文化学科教授、学生部長、学院チャプレンを担っています。また、日本基督教団仁川教会の担任教師もさせて頂いております。

まず、前号で上内理事が私について紹介くださった内容に少し触れさせていただきます。私は神学部を卒業後、教会の伝道師・副牧師として働いた後、渡米しました。カリフォルニア州の神学校で研究を行うことと、日系人教会の牧師として働くことが目的でしたが、着任後に予想もしていなかった計画が持ち上がりました。その教会で日本語による教育を行う幼稚園を設立しようという気運が教会で高まつたのです。地域に住む日本人からの要望がきっかけでした。ゼロからの出発には大きな不安はありましたが、「神の御心であれば成る」と信じて開設を決意しました。スタッフや資金等の問題を含めて絶余曲折を経ることになったのは当然のこと。けれども5年間でなんとか形を作つて帰国しました。その後は嬉しいことに小規模ながらも順調な歩みを続け、来年には創立25周年を迎えます。

私がキリスト教教育に関心を持つようになったのは、伝道師の頃に教会付属の幼稚園で延長保育の担当や園外活動の補助をしたことになります。アメリカで開設した幼稚園の運営により関心がさらに高まりました。帰国後には頌栄で「キリスト教保育」の講義を担当することになり、その意義やカリキュラム等を教職員や学生、現場の方々と共有させて頂きました。

神戸女学院大学では教員として学生に教育（主に「キリスト教学」「宗教学」講義）を行うのが本分ですが、執行部の一員として社会や行政機関からの要求による業務に追われているのが実状です。少子化

時代の経営計画やガバナンス、コンプライアンス等に関連した慣れない仕事に加えて、国家主義や右傾化の対応に迫られるなかで、建学の精神や理念を堅持して未来への方向性を誤らせないことが私に課せられている大きな務めであると思っています。

イエス団の尊いお働きは存じ上げておりましたが、仲間に加えて頂いたことで歴史と使命の重さを再認識しています。また、理念や精神の継承に努めてこられた姿勢に敬意を表します。先行き不透明な時代のなかで、必要不可欠の存在としてのイエス団のさらなる発展のために、誠に微力ではありますが何らかの貢献が出来ることを願っています。あらためて皆様どうぞよろしくお願いします。

次回は、学生時代からの頼れる先輩であり、敬愛してきた平田義理事にバトンをお渡ししたく存じます。



兵庫ブロック
甲子園二葉幼稚園 おおもとにしき
大本錦さん

「人ととのつながり」

このたび、神視保育園からイエス団の輪のバトンを受け取りました甲子園二葉幼稚園の大本錦です。今年で8年目、4歳児を担当しています。

1年目の時から担任をさせていただき、たくさんの子どもたち、保護者の方と出会いました。子どもたちの友だちのような、誰もが甘えられるような保育者でいたいと思い続けています。そして保護者の方とのコミュニケーションを大切にし、子どもの話だけではなく、何でも話せる関係でいられるように心がけています。

今回バトンを受け取り、イエス団に連なる一人としての思いを考える良い機会になりました。働き始めたころはイエス団で働いていることに特に何の意識もしていなかったと思います。私にとってイエス団で働いていると感じるようになったきっかけは二葉幼稚園で働いて5年目のJBフェローズとしての活動です。今年で担当して4年目になりますが、最初はJB担当が回ってきて仕方なく参加していたと思います。会議も楽しいものではなく、ただその場にいてメモをとる、そんな感じでした。しかし、年に5、6回ある会議に4年間参加する中で他の施設の先生方との出会いがたくさんありました。色々な研修やボランティアに参加したいと思うようになったのも、園を越えて出会った他の施設の先生方との交流があったからです。園から一人で参加、というのはどのような研修でも緊張するのであまり積極的ではないですが、園内だけではなく、イエス団の仲間がいるということが私にとってとても活力になりました。

昨年参加させていただいた沖縄平和研修では4泊5日、ブロックを越えた先生方との研修。沖縄に行ける！そんな思いで参加しました。でも、虫も嫌い、泊まりも苦手で楽しみな反面、不安もありました。沖縄でも、たくさんの方と出会いがありました。平和行進をする中の出会い、語り部さん、タクシーの運転手さん、一緒に参加した先生方。そして、伊江島である女性との出会いがありました。私が約10年前、修学旅行で民泊したのが伊江島でした。そのことを話すと、民泊した家を探そう！と言ってください、一緒に探すことになりました。色々な場所を通り、実際に歩き、記憶を蘇らせて・・・ついに10年前

民泊した家が見つかり、再会することができました。私一人では探すことも、むしろ探そうともしていなかったと思います。一緒に探そうと言ってくださったことで、再会することができて本当に嬉しかったです。改めて、人と人とのつながりってすごい！と感じる場面でした。

「イエス団の輪」と聞いたとき、まず頭に浮かんだのが人と人とのつながりでした。園では、毎日楽しく安心して保育できる環境があり、なんでも話せる先生がいて、かわいい子どもたちがいて、いつも温かく見守ってくださっている保護者の方がいて・・・

これからも人と人とのつながりを大切にして、もっともっとつながっていきたいと思います。よろしくお願ひします！

次は一麦保育園さんにお願いしたいと思います。



京都ブロック
京都市南部障がい者地域生活支援センター
「あいりん」相談支援専門員 出口剛史さん

「おれは…生まれててもよかったのかな…」

タイトルは、私が自分の家族に次いで大事で大好きな「ONE PIECE」という漫画から引用しました（568話／尾田栄一郎／集英社）。親の言動によって周囲から蔑まれ、血筋そのものが忌み嫌われていた“エース”という20歳の登場人物が、子ども時代に放った言葉です。文字通り自分の存在意義を見出せない心境を表した言葉に、私は人が生きていくうえで逃れられない「影」の部分が凝縮されているように思えてなりません。

誰しも自分の人生に疑問や搖らぎ、怒りの混じったやるせなさを感じたことがあるのではないでしょうか。私も、思い出したくない過去や、触れられたくない現実はひとつやふたつではありません。この業界で必須の器量とされる情熱や奉仕精神が微塵も備わっていない自分が際立つたびに嫌悪感が増します。「光」あってこそその「影」とはいえ、人生の宿命と一言で位置づけるにはあまりにも残酷で厄介な存在です。

私は相談職として、たびたび他者の「影」と対峙します。突然の事故や病気を受け止められない人。ちょっとしたダメージで体調が大崩れしやすい人。周囲の無理解にさらされ続けている人。縦割りの仕組みと原則論に翻弄されている人。社会的に容認されない手法でしか自分を保てない人。常に死を見据えている人…。はかり知れない「影」に対して何らかのアクションを起こすのが相談職の役割ですが、容易に打開策を見出すことができない日々。仕事とはいえ、無力な自分を突き付けられるのは、なかなか苦しいものがあります。

そもそも、人は「光」と「影」の濃淡、簡単に割り切れない連続性の中で生きています。それが個性や違いとして一人ひとりに反映されている。だからこそ、日常に散りばめられたヒントの欠片を手がかりに、手ごたえのありそうな手立てをもって、手さぐりで向き合うしかありません。あらかじめ用意された唯一無二の答えを探すというよりは、今できることを繰り返した先に行き着いた過程が答えらしきものだった、というイメージです。

それに、目の前の人から得たヒントは自分の人生や子育ても活かされ、めぐり巡って再び仕事の場面で活躍することもあります。ヒントの一つ一つはちっぽけで、「影」に対して絶対的な即効性があるわけ

でも、劇的な解決策に転換されるものでもありません。それでも、偶然や幸運を伴って、連綿と受け継がれるヒントの数々は、無力な自分を支えてくれる頼もしい存在でもあります。

写真は私の愛する子どもたちです。3歳の息子は同じイエス団の野の百合保育園に通っています。私の職場から徒歩3秒の距離に保育園の園庭があるので、毎日見学しています。ちなみに、小学校2年生になる娘も野の百合保育園でお世話になったので、この見学は10年近くに及びます。

この子たちも含めて、生きている限り、「影」が色濃く出現して心身が消耗するときは必ず訪れます。「おれは…生まれててもよかったのかな…」に類似する状態に陥るかもしれません。もし、私が面向かって問われたら、どのように振る舞うことが正解なのか分からずにオロオロしていたのが昔の自分です。今もオロオロしますが、私にしかできないこと、私だからこそできることは何かと考える余裕は多少備わっていると思います。安易に励まさず、否定せず、鼓舞するような言葉もかけない。ヒントを手がかりに、「今は何とも言えないけど…ほら…ここに光があるんじゃない」とさりげなく相手に気づいてもらえるような相談職であり、隣人であり、親でありたい。それが、大学時代からイエス団と関わって15年で培われた信念であり、私の行く先を照らす「光」でもあります。

次はぶどうの木保育園にお願いします。



四国ブロック
瞳保育所 秋山礼子さん

「つながり」

私とイエス団とのつながりは25年前になります。最初は瞳保育所に子どもを預ける保護者としてでした。私は慣れない島暮らしと仕事と子育てで疲れていたのか、当時の先生方はそれを察していましたが何かと声掛けをしてもらったことを覚えています。保育所で他のお母さん方と一緒に讃美歌や、降誕劇の練習をしたり、色々な行事を重ねていくうちに人見知りな私もママ友ができました。今思えば、この機会を作ってもらったことに感謝しています。その後も同じ法人の豊島ナオミ荘へ和太鼓を披露するなど親子で参加していました。そして、調理師とホームヘルパーの資格を取りながら、仕事を探している時に瞳保育所から声を掛けてもらい、保育補助としてお世話になることになりました。今まで普通の会社員だった私が初めて福祉関係の仕事に就くことに責任の重さを感じました。無事に資格も取得でき調理師として引き続き勤務することになりました。

当時はイエス団と言えば神愛館、ナオミ荘、瞳保育所の3施設しか知りませんでしたが、新任職員研修会に参加して初めてイエス団は大きな組織だと知りました。その後の研修会や、JBフェローズ研修、豊島合同夏祭りなどで他の施設の職員の皆さんと交流しその中で色々な考え方や思いを知り、心強く感じました。これから先、困難なことがあっても職場の仲間やイエス団の皆さんにいるから大丈夫だと思います。

島で人生の半分を過ごしている中で豊島のいいところをたくさん見つけました。魚、野菜、果物、米が美味しい。景色、夕日、星空が綺麗です。ひとの良いおじいちゃん、おばあちゃんがいます。私も将来、野菜や果物を作るおばあちゃんになります。そして、保育所にすいかやレモンの差し入れをしたいと思っています。細く長くつながっていきたいです。

次は光の子保育園さんにお願いしたいと思います。

表紙写真の解説



大阪ブロック
天使ベビーセター 和田勉さん

「みんなちがってみんないい」

私が天使保育園に就職して27年目になります。27年前といえば、まだまだ、男性保育士が珍しい時代で保育実習先を探すのも、「トイレがないので」、「更衣室がないので」と断られることが多かったです。また、就職先を探すのにも男性保育者を受け入れてくれる施設は少なく、学校の進路指導の先生に相談して探すのに苦労した事を思い出します。その時に、やっとの思いで見つけたのが天使保育園でした。その天使保育園ではキリスト教保育をしているという事でした。「キリスト教」と関わる事がそれまでなかった私は、「キリスト教?」「どんなところだろうか?」と少し不安で連絡をいれ、半日実習をさせてもらうことになりました。丁度、11月末か12月初旬のアドベントの時期で、部屋もクリスマスの環境になっており、子ども達がクリスマスに期待し目を輝かせながらアドベントカレンダーに飾りを吊るしていた姿が今でも思い出されます。その子ども達の素敵な笑顔や、その時に子ども1人ひとりに丁寧に関わっていた保育者の温かい雰囲気に魅力を感じ就職する事を決めました。

1年目3歳児クラス担当となり、子どもとの関わりに悩み疲れる事多かったですですが、周りの先輩方に助けて貰いながらなんとか頑張ってきました。

人との繋がりを大切にしている園なので、仕事終わりに先輩や同僚とご飯を食べに行って、仕事の悩みなど相談にのって貰ったりしていました。また、大きな行事が終わると園全体での打ち上げがあり、その当時はお酒なども苦手だったり、人見知りもあったので「しんどいな~」と思ったりした時もありましたが、その打ち上げの席で私があまりお酒を飲もうとせず、人と話すのを恥ずかしがっている姿を先代の小川居園長先生が見て、「お前、かっこつけるなよ」と言われました。

その時は「かっこを付けている訳ではないけど…」と思っていたが、時が経ち今になって思えば、自分を良く見せようとする事や、他人から自分がどう見えているかという事を気にするのではなく、ありのままの自分を出して人と付き合い人と関わる事が大切で、そのような経験をつみ上げていく事で“違いを認め合える”という事に繋がっていくのだなと思いました。周囲ばかり気にして自分を出すのが恥ずかしかったり、失敗を恐れたりしていると本当に大事な物が見えず分からなくなるという事を今、痛感しています。

子どもも、保護者も、職員も皆一人ひとり個性があり違いがあるって当然です。普段は思うようにいかず「なんで!!」とイライラしたり焦ったりする事もありますが、みんなちがってみんないい。そのような社会になるように、まずは、自分の居る保育園でそのような気持を大切にして保育していきたいと思います。

次回は、ガーデン天使にお願いしたいと思います。



写真上から①～⑤の順

4歳児5歳児クラスで「芋ほり遠足」でかけました。

① 自然いっぱいの畑を満喫しました。

友愛幼稚園

② 見て見て、ダンゴ虫見つけたよ

瞳保育所

③ 命に向き合う

馬見労祷保育園

④ One Team

馬見労祷保育園

「すてきな笑顔」 高校のふれあい牧場にて

⑤ ミニチュアホースのナンナンとベーベーに干し草をあげたよ。

愛之園保育園

次号に向けて、施設職員の皆さまからの写真を募集しております。M.S2009の取り組みをイメージするような写真で、個人情報保護の条件がクリアできているものをお願いいたします。

編集後記

1909年12月24日 賀川豊彦先生が神戸の新川地区に病身を投じ、地域のために全身全霊で向き合い、様々な社会悪と闘われました。多くの協働者と共に脈々と続いてきたイエス団の働きの歴史。その歴史が紡がれて今年は献身110年を迎えます。イエス団報12号の巻頭、村山盛嗣先生の言葉にこのようなのがあります。

『賀川先生の最後の説教の時、ヘブル人への手紙第11章全体を引用されました。「神は私たちのために、更にまさつたものを計画してくださったので、私たちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。』

この「私たち」を、「今の私たち」に読み替えると、この私たちは今の私たちです。あなたです。私です。「今の私たちを除いては、彼ら（彼らと言うのは、賀川先生です。複数になっているのは、賀川先生の仕事を一緒に手伝った同僚たちです。またイエス団の施設を築いた先生たち、我々の先輩です。）は、完全な状態に達しなかったのです。』と言われました。これはどう言う事か。歴史を見た時に、一人の人がどんな働きをしても、それは中途で終わってしまうが、歴史は続いている。そして、それに続いている者があるから、働きは完全に近づいていく。だから賀川先生は、「自分を継いでくれ。」と言うような事を一つも思っていない。自分も前の人たちのキリスト精神を受け継いで、一つの役割を果たしただけだと。私を継ぐんじゃなくて、私のキリスト精神を継いでいただきたい。これが遺言なのです。』（一部抜粋）

今年もイエス団の創立記念の日に皆さまの働きにより、イエス団報23号を発行できました事、心より感謝いたします。